



日本森林資源は充実してきている

資料2-2

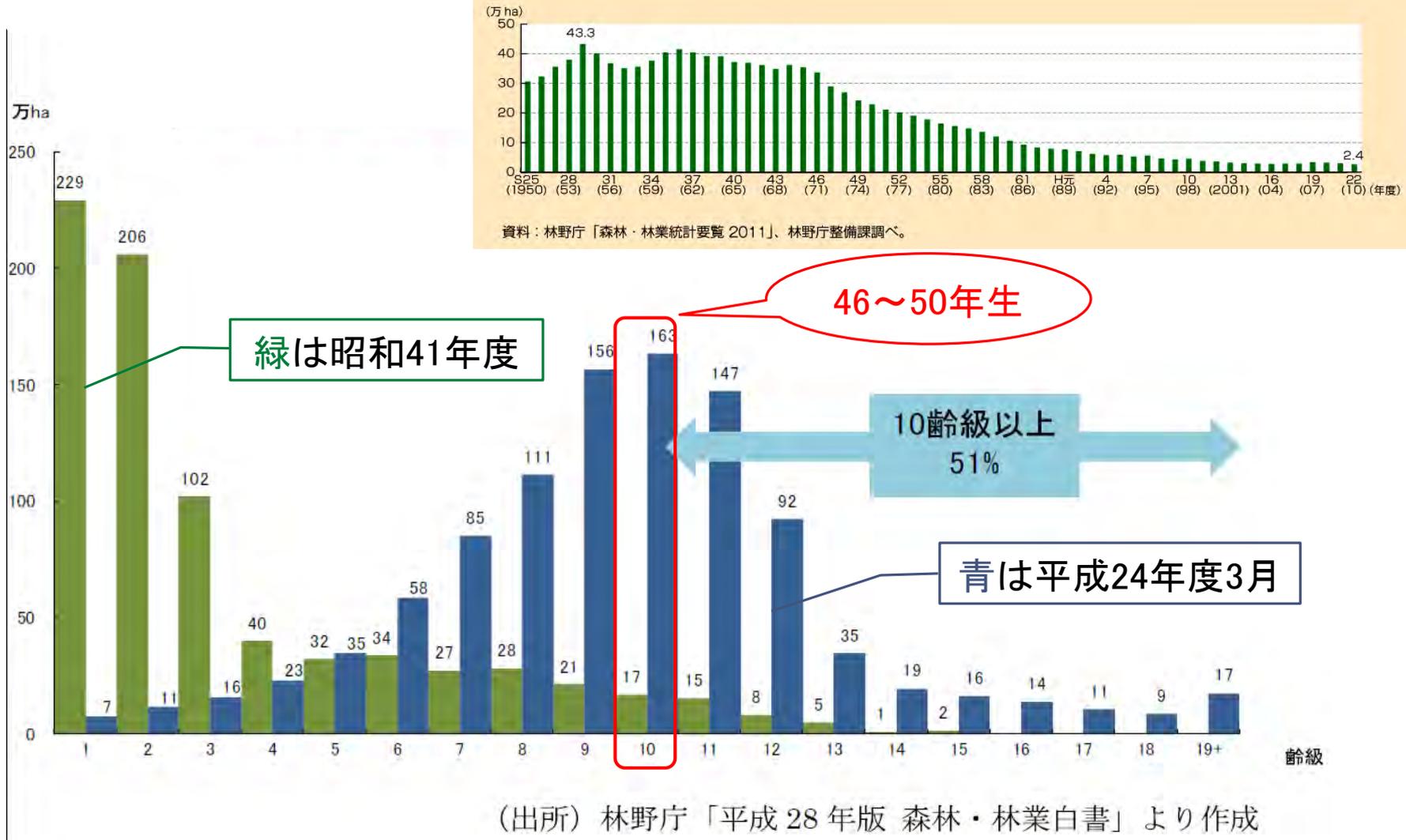
- ◎ 国土の67%が森林、2千5百万ha
- ◎ 昭和の大造林を経て1千万haの人工林
- ◎ 総蓄積はこの1966年から2012年で2.6倍、人工林で5.5倍
- ◎ 造成過程で現在価値に換算して25兆円の資金と延べ10億人の労力を投入
- ◎ 適切な投資を行い森林資源の経済価値を高める

日本の特徴は1945年までの戦争と復興に多くの木材が使用されその後1960年代まで現在の3倍以上伐採されて森林は若齢化した。その後の森林回復活動と輸入木材に需要が代替される事で現状まで回復した。日本の森林はやっと育ってきた状態である。



人工林の齢級配置の推移

この50年で10齢級以上（51年生以上の人工林の面積は47万haから523万haに増加



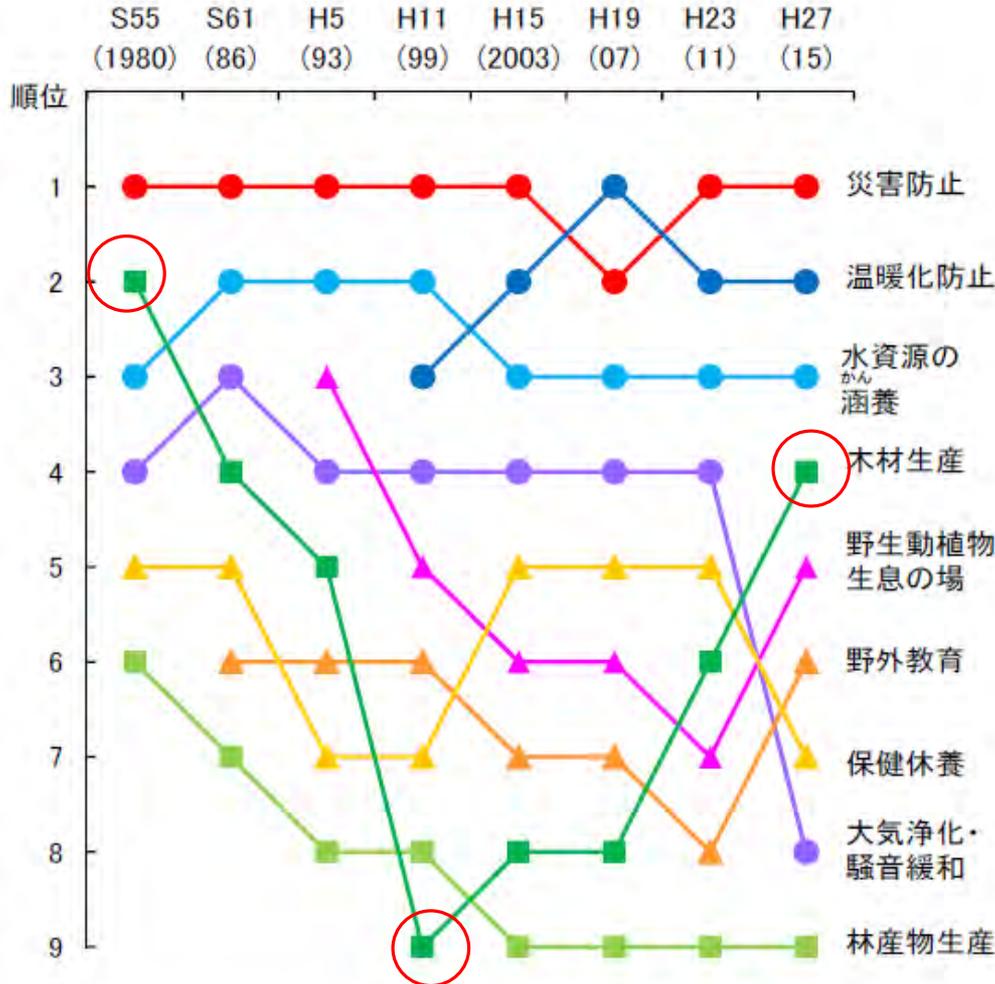


森林・林業基本計画について

平成28年5月24日に新たな森林・林業基本計画が閣議決定。

1. 本格的な利用期を迎えた森林資源
2. 非住宅分野等における新たな木材需要
3. 主伐と再造林対策の強化
4. 国産材の安定供給体制
5. 林業・木材産業の成長産業化

■ 国民の森林に期待する働き



資料: 総理府「森林・林業に関する世論調査」(昭和55年)、「みどりと木に関する世論調査」(昭和61年)、「森林とみどりに関する世論調査」(平成5年)、「森林と生活に関する世論調査」(平成11年)、内閣府「森林と生活に関する世論調査」(平成15年、平成19年、平成23年)、農林水産省「森林資源の循環利用に関する意識・意向調査」(平成27年)

注1: 回答は、選択肢の中から3つまでを選ぶ複数回答。

注2: 選択肢は、特になし、わからない、その他を除いて記載。

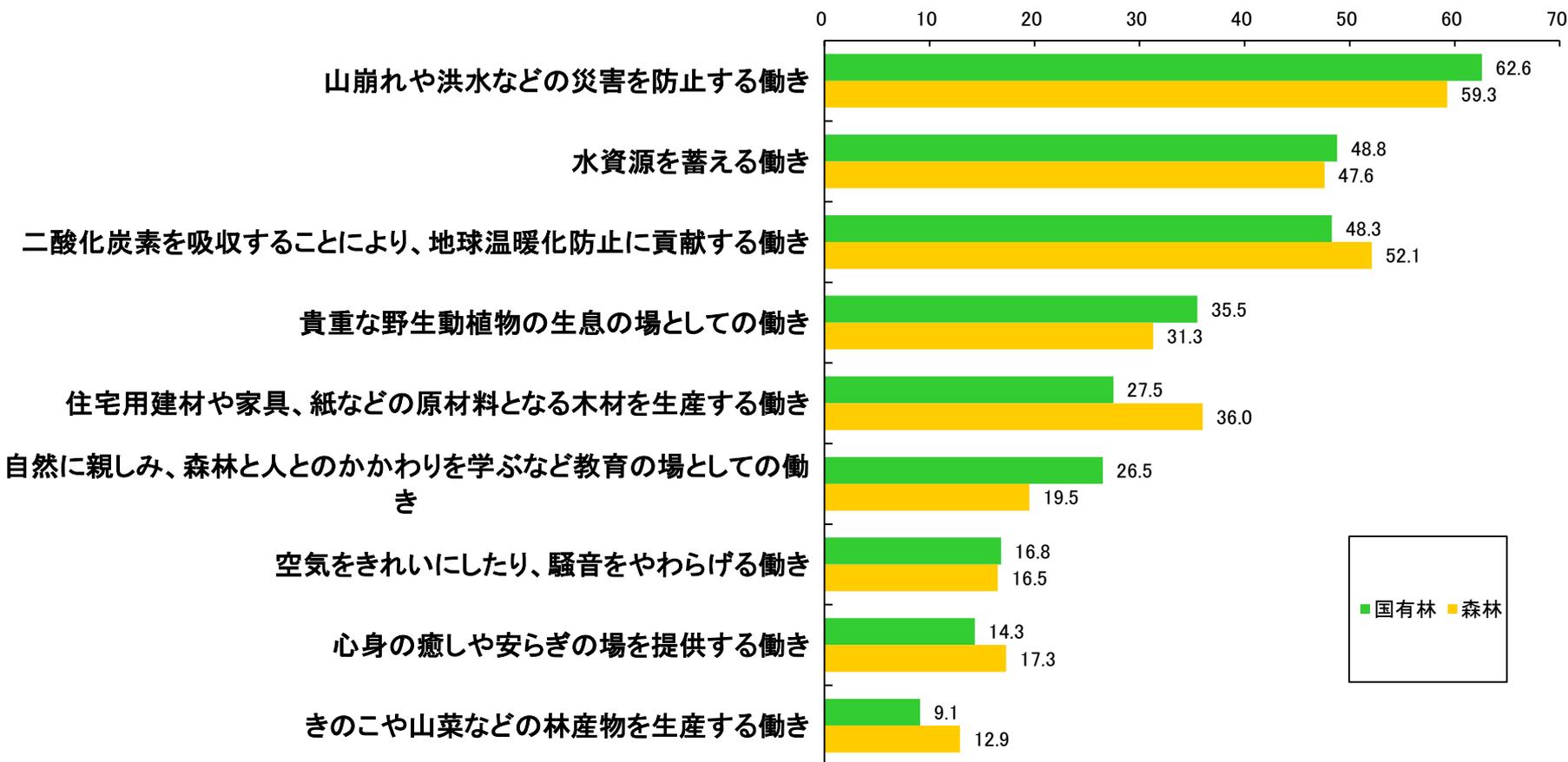
森林の機能に対する国民の期待は時代と共に敏感に変化していく。

林業の主たる目的である木材生産は特に激しく変化した。

1980年に2位であったものが1999年には9位と最下位、そこから再び期待値は上昇し2015年には4位になった。

森林と国有林に期待する役割

(%)



平成28年度林業白書

注1: 消費者モニターを対象とした調査結果。

2: この調査での「消費者」は、農林水産行政に関心がある20歳以上の者で、原則としてパソコンでインターネットを利用できる環境にある者。

資料: 農林水産省「森林資源の循環利用に関する意識・意向調査」(平成27(2015)年10月)



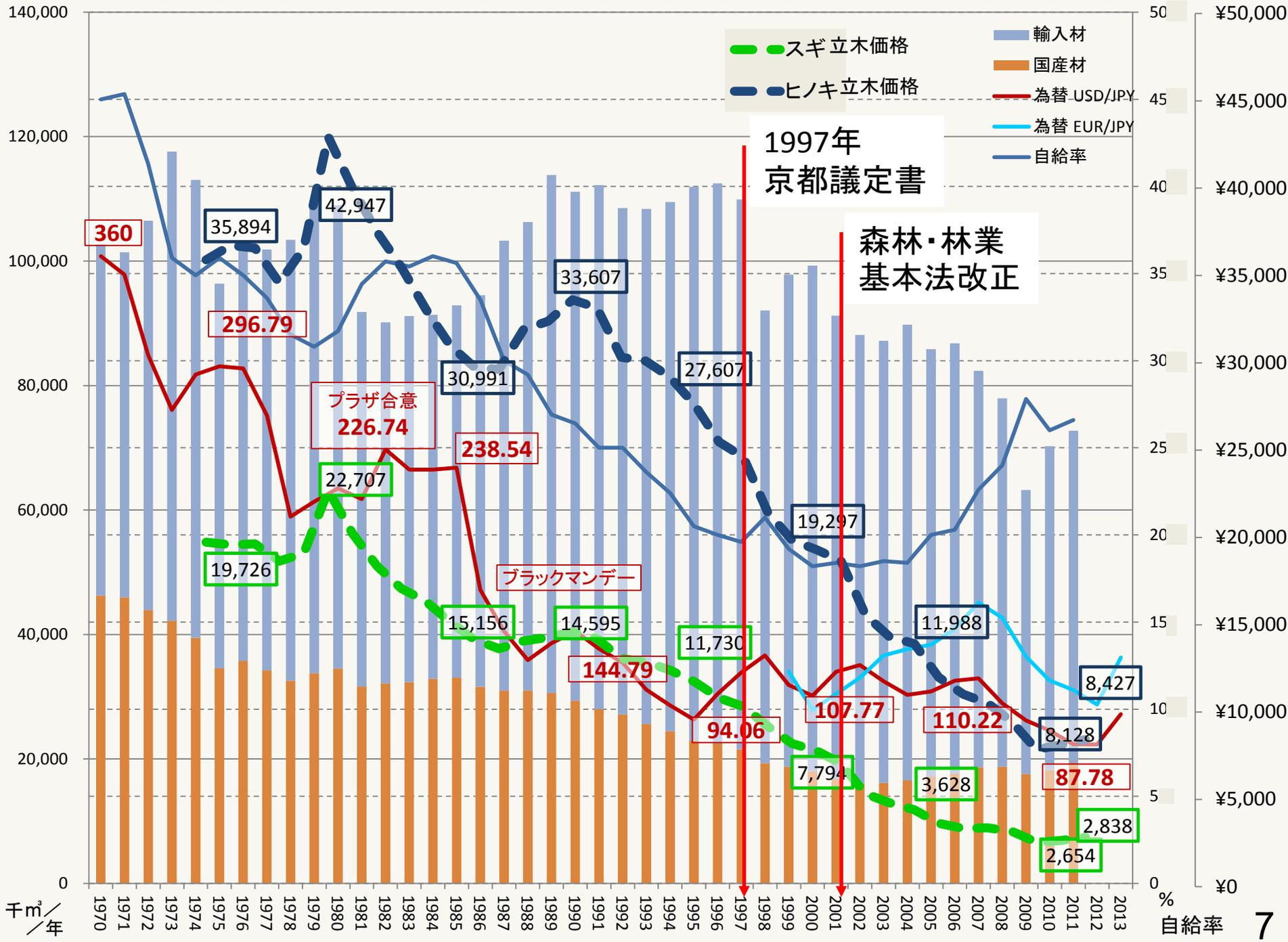
国内の林業のプラス面マイナス面

プラス面

- 森林蓄積の増加
- 自給率の回復
- スギ需要の拡大
- バイオマス発電の増加
- 国産材利用の合板増加
- 若干若手人材が増大
- クリーン木材法が成立
- 森林認証の増大
- 公共建築の木造化法
- 新しい木材の使い方
- 間伐が市民に知られた

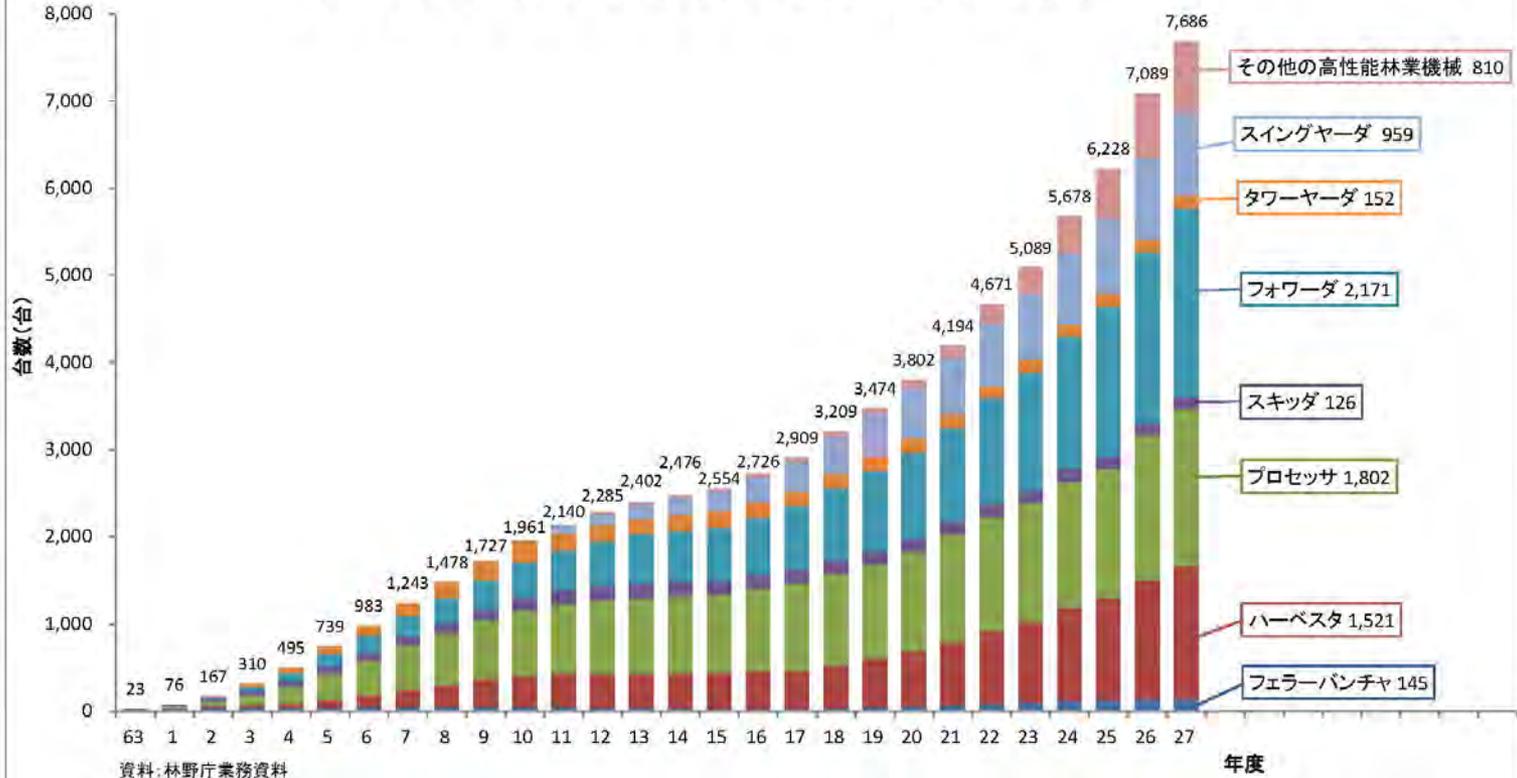
マイナス面

- 住宅着工数の下落
- 木材価格長期下落
- 林業従事者の減少
- 間伐技術の単純化
- 森林所有者の所得が無い
- 再造林の放棄
- スギが最も安い木材
- 育林の合理化が進まない
- 環境の配慮が行われない
- 森林管理技術の低下
- 市民との関係が表面的





高性能林業機械の保有状況の推移(平成27年度)



資料: 林野庁業務資料

- 注1) 林業事業者等が自己で使用するために、当該年度中に保有した機械の台数を集計したものであり、保有の形態(所有、他からの借入、リース、レンタル等)、保有期間の長短は問わない。
- 注2) 平成10年度以前はタワーヤーダの台数にスイングヤーダの台数を含む。
- 注3) 平成12年度から「その他高性能林業機械」の台数調査を開始した。

表5 高性能林業機械の稼働状況(平成27年度)

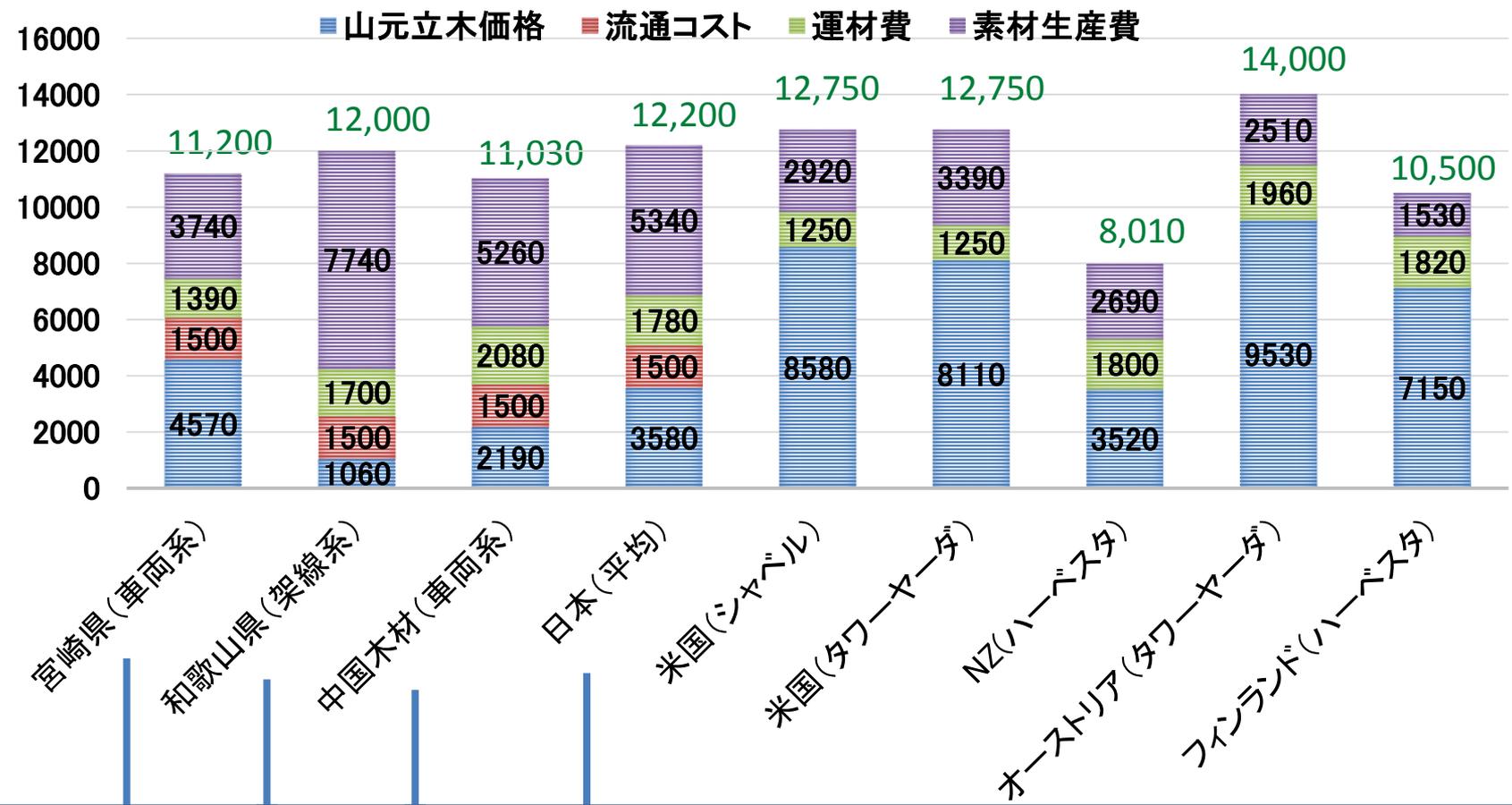
機種	フェラーバンチャ	ハーベスタ	プロセッサ	スキッダ	フォワーダ	タワーヤーダ	スイングヤーダ
稼働率(%)	35	57	57	16	49	19	55

注) 稼働率は、(当該高性能林業機械の年間稼働日数/当該事業者が機械を保有した日数から退休、雨天等休業日数を差し引いた日数) × 100で算出した。



日本と諸外国との林業施業コストの比較

グラフの積み上げ合計は素材価格となる。



宮崎県(単面系) ↓ *171万
 和歌山県(架線系) ↓ 40万
 中国木材(単面系) ↓ 82万
 日本(平均) ↓ 134万

*50年生のスギにおいて1ha当たりの伐採材積量を375m³と仮定した場合の山主収入(円/ha)

http://www.dbj.jp/ja/topics/region/industry/files/0000027143_file2.pdf

我が国林業・木材産業の今後の可能性

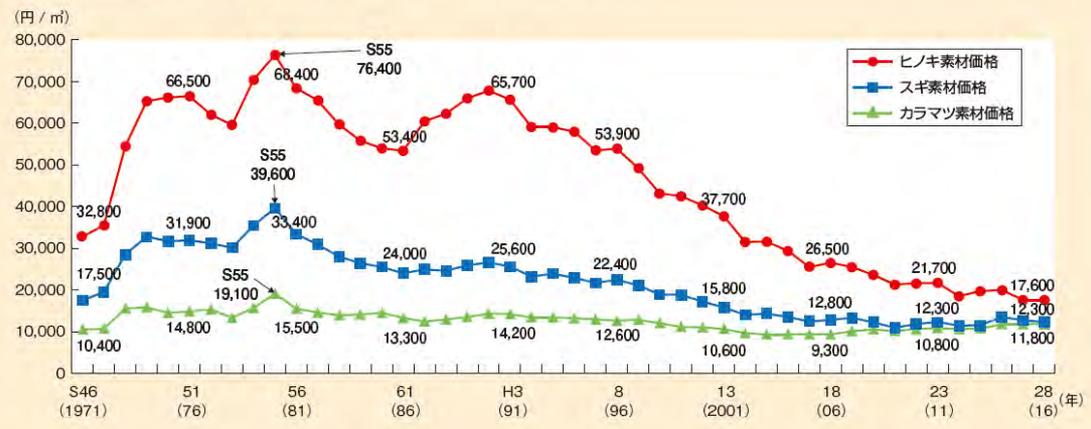
日本政策投資銀行

(出所: 中国木材(株)受領資料より制作)



木材価格の推移

資料Ⅲ-5 スギ・ヒノキ・カラマツの素材価格の推移



注1: 「スギ素材価格」、「ヒノキ素材価格」、「カラマツ素材価格」は、それぞれの中丸太(径14~22cm(カラマツは14~28cm)、長さ3.65~4.00m)の価格。
 2: 平成25(2013)年の調査対象の見直しにより、平成25(2013)年の「スギ素材価格」のデータは、平成24(2012)年までのデータと必ずしも連続しない。
 資料: 農林水産省「木材需給報告書」、「木材価格」

丸太価格平成28年の価格
 スギ昭和55年の31%
 ヒノキ25%

資料Ⅲ-6 全国平均山元立木価格の推移



注: マツ山元立木価格は、北海道のマツ(トドマツ、エゾマツ、カラマツ)の価格である。
 資料: 一般財団法人日本不動産研究所「山林業地及び山元立木価格調査」

立木価格平成28年の価格
 スギ昭和55年の17%
 ヒノキは14%
 マツとスギの価格は逆転

ヒノキの丸太に占める立木価格

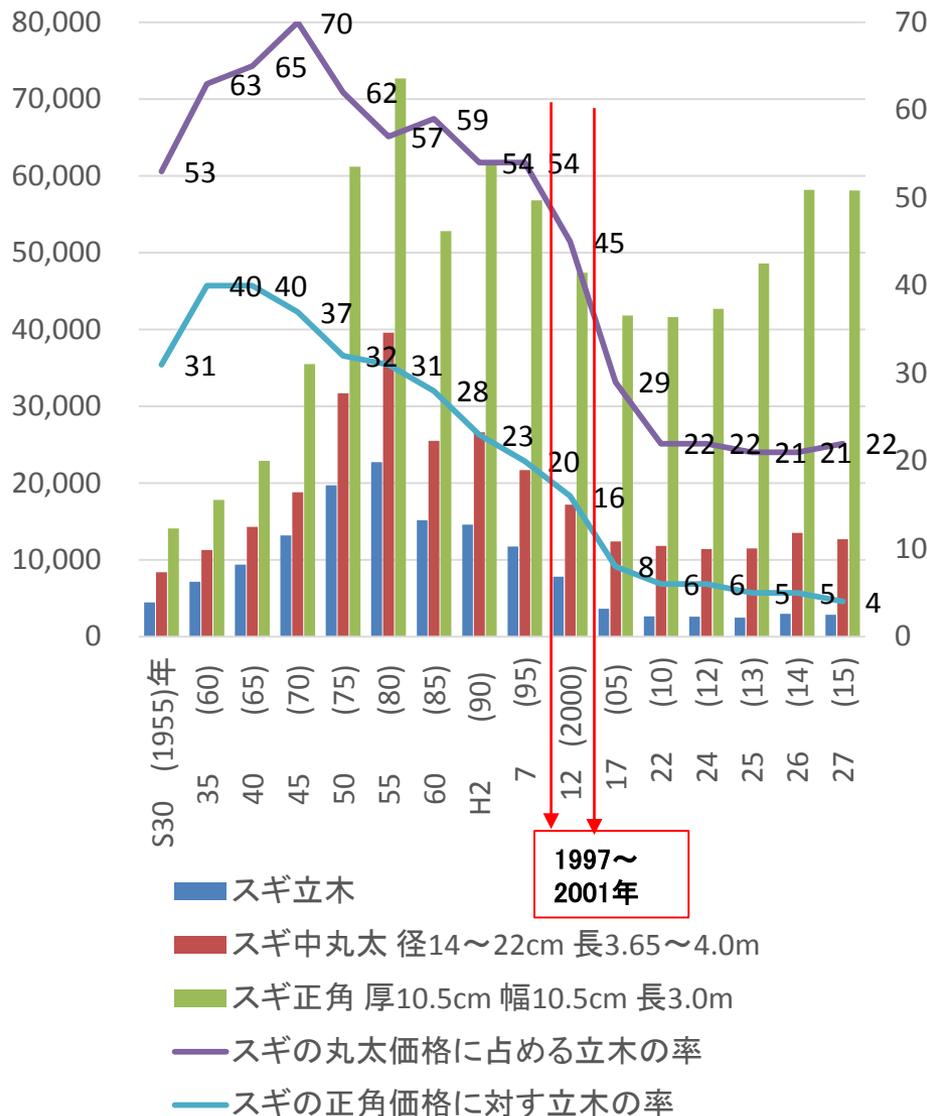
S46年60%	H 8年47%
S55年56%	H18年41%
S56年58%	H27年38%
S61年55%	H28年35%

平成28年度林業白書より

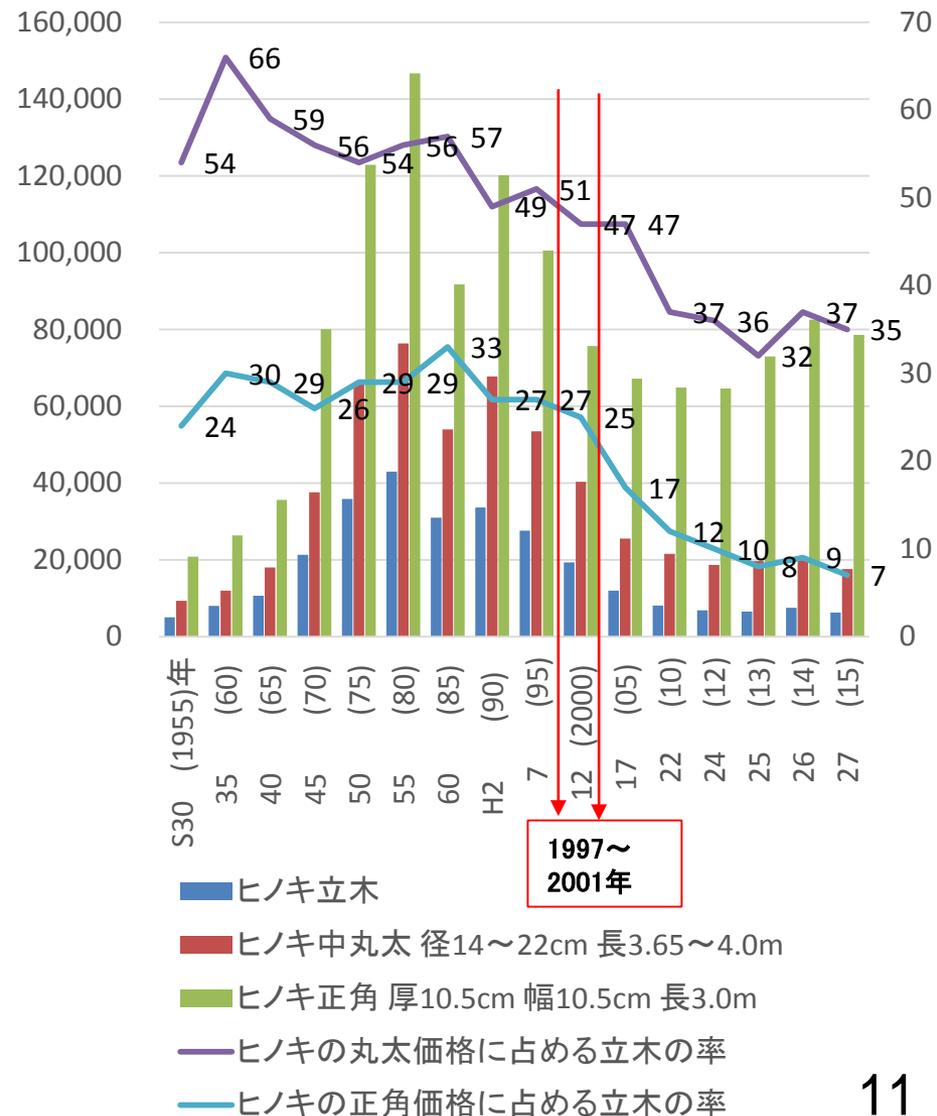


木材価格と立木価格の割合の推移

スギの立木、丸太、製品価格の推移



ヒノキの立木、丸太、正角価格の推移



注

注1:山元立木価格は、利用材積1m³当たり平均価格(各年3月末現在)。

2:丸太価格は、各工場における工場着購入価格。

3:製材品価格は、小売業者への店頭渡し販売価格。

4:製材品価格のうちベイツガ正角については、平成19(2007)年に、統計の調査品目から削除された。

資料:一般財団法人日本不動産研究所「山林素地及び山元立木価格調」、農林水産省「木材需給累年報告書(平成7(2005)年9月)」「昭和30(1955)～平成2(1990)年」「木材需給報告書」(平成7(1995)～26(2014)年)、「木材価格」(平成27(2015)年)



スギ1m³の立木価格で雇用できる人数

